

研究会  
報告

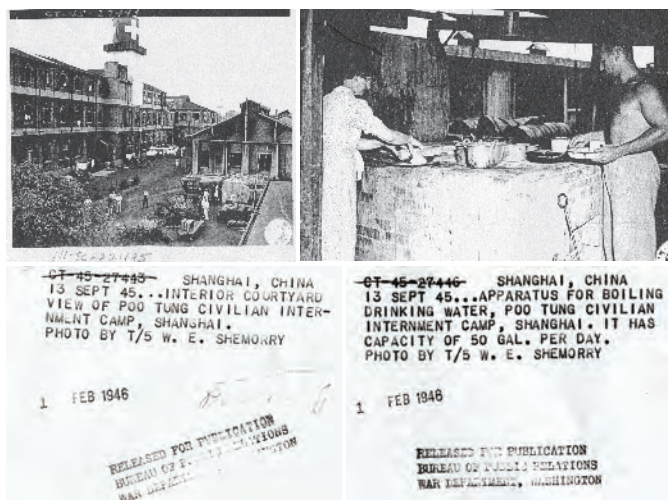
# 上海の「敵国人集団生活所」をめぐる物語

## — アメリカ国立公文書館 (NARA) の資料 —

孫 安石

2011年に刊行された貴志俊彦編『近代アジアの自画像と他者』（京都大学出版会）の中に第2次世界大戦期間中に日本側によって設置された上海の「敵国人集団生活所」について紹介した拙文を書いたことがあり、授業や市民講座などの機会にその概略について触れるものの、かつて日本が1941年12月以降、アメリカ、イギリス、カナダ、オランダ、ベルギーなどの連合国と戦争状態に突入し、互いを「敵性」国として位置づけ、敵性国の軍人と民間人を「捕虜」、またはそれに準じる「危険分子」として移動の自由は勿論、財産の押収などを行ったことは今の若者の感覚ではなかなか理解しにくい様子であった。しかし、その結果がアメリカでの日系アメリカ人に対する強制収容であることを例示すれば、やっと納得の行く顔にかわるのである。アメリカの民間人に対する強制収容所は、日本の他に中国各地、フィリピン、ハノイなど日本が占領した「大東亜共栄圏」の各地に設定され、上海に設置されたのが、敵国人集団生活所（英文名称—Shanghai Civil Assembly Center、または、Shanghai Civilian Internment Camp、中文名称—上海盟国僑民集中營）と呼ばれた施設であった。（出典：「大東亜戦争関係一件 交戦国間敵国人及俘虜取扱振関係 帝国

ところが、昨年の12月にアメリカ・ワシントンの国立公文書館（NARA）を訪問した時に、アーキピストの協力を得て、RG111-Signal Corpsが残した写真資料を閲覧した時に、戦後直後の1945年8月から9月15日までの間の中国各地を写した写真の中に、上海の「敵国人集団生活所」をアメリカが接収した直後の様子を撮影した写真が含まれていることが分かった。



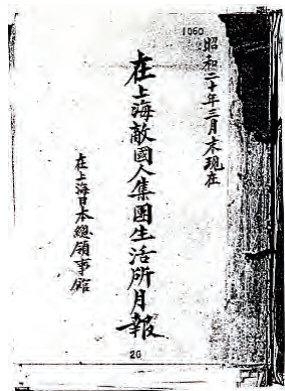
【写真1】

【写真2】

これらの写真は当時の上海の浦東（POO TUNG）地区の「敵国人集団生活所」の様子を写すもので、【写真1】に「SHANGHAI, CHINA, 13 SEPT 45 … Interior Courtyard View of POO TUNG Civilian Camp, Shanghai」、【写真2】に「SHANGHAI, CHINA, 13 SEPT 45 … Apparatus for Boiling Drinking Water, POO TUNG Civilian Camp, Shanghai. It has capacity of 50 Gal. per DAY」という説明と共に撮影者W.E. SHEMORRYという記名が見え、時間と場所、そして撮影者が特定できる点で極めて興味深い記録である。

この「敵国人集団生活所」に抑留されたアメリカ民間人を対象に1942年から1943年の間に日本とアメリカとの間では、戦時交換船（アメリカではGripsholm号、日本では帝垂丸）が出航し、インドのモームンガオ（Mormugao）で抑留者の交換を行っていたことは幾つかの先行研究が発表されており、その概略を窺うことができるが、まだ不明なところも少なくない。1945年8月15日の終戦時における中国とアジア各地の「敵国人集団生活所」の接収の様子については今後も、注目していきたい。

（所員、外国語学部教授）



の運営の詳細は日本の外務省外交史料館所蔵、「大東亜戦争関係一件 交戦国間敵国人及俘虜取扱振関係 帝国権下敵国人関係 在満支敵国人関係」（請求番号：A-7-7-0-9-11-2-2、全8冊）によって窺うことができる。また、実際、この「敵国人集団生活所」で生活した経験を記録した文書が、アメリカのオレゴン大学が所蔵するChecklist of Missionary Collections, Special Collections, Knight Library, University of Oregon, Eugene, OregonのなかのJ.C.Oliverの中に保存されていることについても同じく紹介した通りである。